

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

正しい税金がつくるもの

熊本県立玉名高等学校附属中学校

三年 斎田 悠理菜

私は幼い頃にアトピー性皮膚炎を発症し、現在も治療のため通院している。病院では、症状に合わせて外用薬や内服薬が処方される。しかし、私は今住んでいる市では病院でお金を払ったことがない。なぜなら、私が住んでいる市では「子ども医療費助成制度」があるからだ。0歳から十八歳までの子供の医療費を市が負担してくれる制度だ。市が負担しているということは、そのお金は税金によって賄われている。

治療費は、いつも診ていただいている医師の方によると、一ヶ月分の薬だけで一万円を超えることもあるそうだ。もしこの治療費が全て自己負担になってしまえば、きっと私は病院に毎月行くことを控えるだろう。そうなれば、体の傷や跡が治らず半袖も着たくなくなると思う。

私は、この「子ども医療費助成制度」に幼い頃からずっと、今も支えられている。この制度のもとになっている税金は、今働いている大人たちが納めているものだ。私も、来年は高校生になり三年後には成人する。これからを生きていく世代を支えていくのだ。だから、働くようになつて成人したら私が支えてもらつたように、私も納税をしてこれから日本を作り一員となりたい。

さて、私には兄がいる。兄は学校に通いながらバイトをしている。いつも母は兄に、「今月どのくらい働いた? 越えとらんよね。」と、何度も口酸っぱく確認する。兄は、親の扶養から外れないようにまだ働きたいのにシフトを少なく調整するいわゆる「働き控え」をしている。私は、ただなんとなく「働きたいのに思うように働けないのはかわいそうだな」くらいにしか思つていなかつたが、ある日の兄の言葉を思い出した。

「バイト全然人が足らん。こんな人数でどうする。」

と、バイト先の店員があまりに少ないと愚痴をこぼしていた。兄も働き控えをしているが、他のバイトの人も働き控えをしているのだろう。

つまり、兄のバイト先では、「労働力不足」という問題が起つていた。雇われているバイトは決して少なくない。しかし、「〇〇万の壁」と言われるよう、税金の壁を超えないように働き控えをしている人が多くいる。労働力不足という問題は、人口減少もあるが税金の壁も深く関わっているのではないかと思う。

「納税」は、景気、人口、円の価値など時代に合わせて更新されていくべきものだと考える。私も一国民として、将来正しく納税していきたいし、税金が正しく確かなものであつてほしいと願う。

正しい税金は、労働力を生み、人々を支え、大きく安定した基盤を築き、この国を強くしていくのだろうと思う。